

所内研究報告第77号

2018年3月30日

国立社会保障・人口問題研究所 2017～2019 年度人口問題プロジェクト研究

長寿革命に係る人口学的観点からの
総合的研究

— 第1報告書 —

まえがき

わが国の平均寿命は 20 世紀後半に著しい伸長を遂げ、2016 年には男性 80.98 年、女性 87.14 年と、世界有数の長寿国となった。「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」によれば、平均寿命は 2065 年には男性 84.95 年、女性 91.35 年（死亡中位仮定）に達すると推計されている。このような驚異的な寿命の進展は人類の大きな達成の一つであり、「長寿革命」と称されることもある。

このような世界最長寿国であるわが国の長寿化の要因・影響に関する分析に加え、健康寿命の延伸等、長寿化の進展と健康期間の関係等に関するメカニズムの解明や、さらに得られた研究成果を国内および国際的に発信することは、わが国の人口学研究における重要な課題となってきたところである。

こうした状況の中、本研究所では「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究」（平成 23～25 年度）および「長寿化・高齢化の総合的分析及びそれらが社会保障等の経済社会構造に及ぼす人口学的影響に関する研究」（平成 26～28 年度）」において、わが国初の試みである「日本版死亡データベース(Japanese Mortality Database、以下 JMD)」の開発を中心としながら、人口学的・学際的分析を進めてきた。本研究プロジェクトは、これらの先行プロジェクトの成果をさらに発展させつつ、長寿革命にかかる人口学的観点からの総合的研究を行うことを目的としている。

本研究プロジェクトは、①日本版死亡データベースの整備・充実、長寿化に関する人口学的研究への応用、②高齢者に関する健康および長寿者に関する研究、③高齢者の死亡過程に関する研究、④高齢者に係る学際的な研究と成果の発信という 4 つの領域から研究が推進される。また、プロジェクトメンバー（所内・所外委員）に加え、厚生労働省で統計や数理の実務に携わっている方々や民間企業のアクチュアリーなど専門家の方々に外部協力者として参加していただいていることも本プロジェクトの特色の一つとなっている。

また、当研究所では、研究所における様々な研究成果の社会発信や啓発活動の一環として、毎年度 1 回、厚生政策セミナーを開催してきているが、本年度は当研究プロジェクトが中心となって企画に携わり、「長寿化に関する国際シンポジウム 二大長寿国 日本とフランスの比較」と題し、2018 年 2 月 1 日（木）、三田共用会議所においてセミナーを開催した。プロジェクトメンバーからは、フランス・メレ フランス国立人口研究所上席研究員、林玲子国際関係部長、石井太人口動向研究部長の 3 名が講演を行うとともに、パネルディスカッションに登壇した。また、同じく本プロジェクトが中心となって、フランス国立人口研究所との情報交換や研究報告を目的とした「長寿化に関するフランス国立人口研究所との共同ワークショップ」を厚生政策セミナーの前日に開催した。ここでも、プロジェクトメンバーからは林玲子国際関係部長、別府志海情報調査分析部第 2 室長がそれぞれ報告を行ったところである。

本報告書はプロジェクトの初年度の研究成果を取りまとめ、「第 1 報告書」として刊行するものである。本報告書は 3 部構成になっており、第 1 部（総論）で研究の概要を述べ、第 2 部（各論）には研究班員による個別論文を収録した。また、第 3 部には資料として本年度開催した研究会における報告資料に加え、フランス国立人口研究所との共同ワークショップの資料についても収録を行っている。

本研究プロジェクト実施に当たっては本研究所内外の多くの方々のご協力を得た。とりわけ本

プロジェクトの研究会において有益なご教示をいただいた、日本大学的那須郁夫特任教授、早稲田大学院商学研究科大塚忠義助教、ジブラルタ生命保険株式会社谷口豊様、第一生命保険株式会社山崎浩様、スイス再保険藤澤陽介様、株式会社ニッセイ基礎研究所篠原拓也様に厚く御礼申し上げます。

2018年3月
国立社会保障・人口問題研究所
「長寿革命に係る人口学的
観点からの総合的研究」
プロジェクト

(所内委員)

石井 太 (人口動向研究部長)
林 玲子 (国際関係部長)
山本克也 (社会保障基礎理論研究部長)
泉田信行 (社会保障応用分析研究部長)
是川 夕 (国際関係部第2室長)
別府志海 (情報調査分析部第2室長)
佐藤 格 (社会保障基礎理論研究部第1室長)
大津 唯 (社会保障応用分析研究部研究員)

(所外委員)

齋藤安彦 (日本大学教授)
佐藤龍三郎 (中央大学客員研究員)
篠原恵美子 (東京大学医学部附属病院特任研究員)
鈴木隆雄 (桜美林大学教授)
高橋重郷 (明治大学兼任講師)
橋本英樹 (東京大学教授)
堀内四郎 (ニューヨーク市立大学教授)
増田幹人 (駒澤大学経済学部准教授)
フランス・メレ (フランス国立人口研究所上席研究員)

目 次

第1部 研究概要

長寿革命に係る人口学的観点からの総合的研究 —第1報告書—	3
--	---

第2部 研究論文

日本版死亡データベースにおける死因系列整備に関する検討 石井 太	11
日本における長期時系列死因統計の構築に向けて—1994～95年の心不全と 腎不全の不連続の修正— 大津唯, 是川夕, 石井太, Markéta Pechholdová, France Meslé, Jacques Vallin	31
健康指標の組み合わせ 林 玲子	45
主観的健康観と日常生活動作の関係からみた健康期間の分析：2001, 2013年 別府志海・高橋重郷	55
モンゴルの公的年金財政試算—予備的考察— 山本克也	75
長寿化と社会保障財政の世代重複モデルを用いた分析 佐藤 格	95

第3部 資料（本年度研究会等報告資料）

1. 研究会

健康寿命の延伸における咀嚼機能の重要性と、高齢者の社会参画について	那須郁夫	113
健康寿命と平均要介護期間に関する考察－ サリバン法の問題点と動的ロジャース法の提案 健康寿命と平均要介護期間の将来推計－	大塚忠義・谷口 豊	125
標準生命表 2018 について	山崎 浩	141
イギリスのアクチュアリー会による高齢者死亡率の研究	篠原拓也	153
遺伝子検査とアクチュアリー	藤澤陽介	169

2. ワークショップ

Organization and Administration of INED	William Molmy	179
Organization and Administration of IPSS	林 玲子	183
A Demographic Analysis on the Average Period of Receiving Medical Care - from the Viewpoint of Disease Structure -	別府志海	189
Cognitive limitations and activity restrictions at home in France: Towards an acceleration of the disablement process?	Amélie Carrère	195
Income Poverty among the Elderly in Japan	渡辺久里子	201